

# えがお

# 春

2021

令和3年3月31日発行

泌尿器科

在宅療養  
支援チーム

## Topics

- 新型コロナウイルス感染症診療  
— 激動の1年を振り返って —
- 泌尿器科のご紹介
- 在宅療養支援チームのご紹介

# 新型コロナウイルス感染症診療 —激動の1年を振り返って—



病院長  
中村雅彦

当院の新型コロナウイルス感染症診療が始まってから1年が経ちました。昨年2月16日のダイヤモンドプリンセス号での患者さんから始まり、現在(令和3年2月15日)までに175例(うち2例は再発)を受入れてきました。1918年のスペイン風邪以来、100年に1度と言われる未曾有の危機も第3波を乗り越え、なんとか現在は小康状態にあります。松本広域医療圏において唯一の感染症指定病院としてここまで来られたのは、職員の一一致結束し難局を克服しようとする高い志と、何よりも市民の皆様からいただいた応援、数々のご支援のお陰に他なりません。多くの勇気を頂き、挫折しかけた時など心の支えになっております。ありがとうございます。

第1波(昨年4月~5月)は、検査体制も十分ではなく、手探りの中慌た

だしく発熱外来や感染症病棟の体制づくりを進めました。外来は一般患者さんとのトリージと、動線の区別に腐心しました。当初、PCR検査が可能な施設が県内に2か所しかなく、結果判明も3~5日かかる状況でした。確定患者の他に、疑似症例のベッド確保にも苦労しました。

第2波(同7月~9月)には、院内でのPCR検査の導入、また民間検査機関への外注が可能になるなど検査能力が格段に向上しました。また、免疫暴走や動脈血栓症といった重症化のメカニズムが明らかになり、それらに対する治療法が普及しました。

第3波(同10月~今年1月末)は、年末年始の人の移動に伴い爆発的な感染拡

大となりました。懸念されていた複数のクラスターが同時に発生し、その中には病院や高齢者施設も幾つかあり、第1波、2波と異なり高齢者や重症者が急増しました。昨年の12月30日には、受入れ病棟を拡大し16床から25床まで受入れベッド数を増やしましたが、1週間で満床になってしまい、今年の1月15日にはさらに37床に増やして対応しました。1日に10人の新規患者さんが入院される日もあり、稼働数で入院患者が30人を超える毎日が続きました。重度の認知症や日常生活動作の低下している患者さんが多く、看護負担は計り知れないものがありました。このような中、感染症病棟に勤務する複数の看護師の感染が判明しました。

幸い一般の入院患者さんや、他の職員への波及はなく、感染症病棟内に留めることができました。院内感染対策には最善を尽くしてきましたが、いくつかの盲点もあり、さっそく病棟の環境改善、勤務体制の見直しを行いました。

今年はワクチン接種が進みますが、まだまだあと1年は人の移動に伴って幾つかの波がやってくると想定しています。ワクチンが普及したインフルエンザでも、毎年感染のま

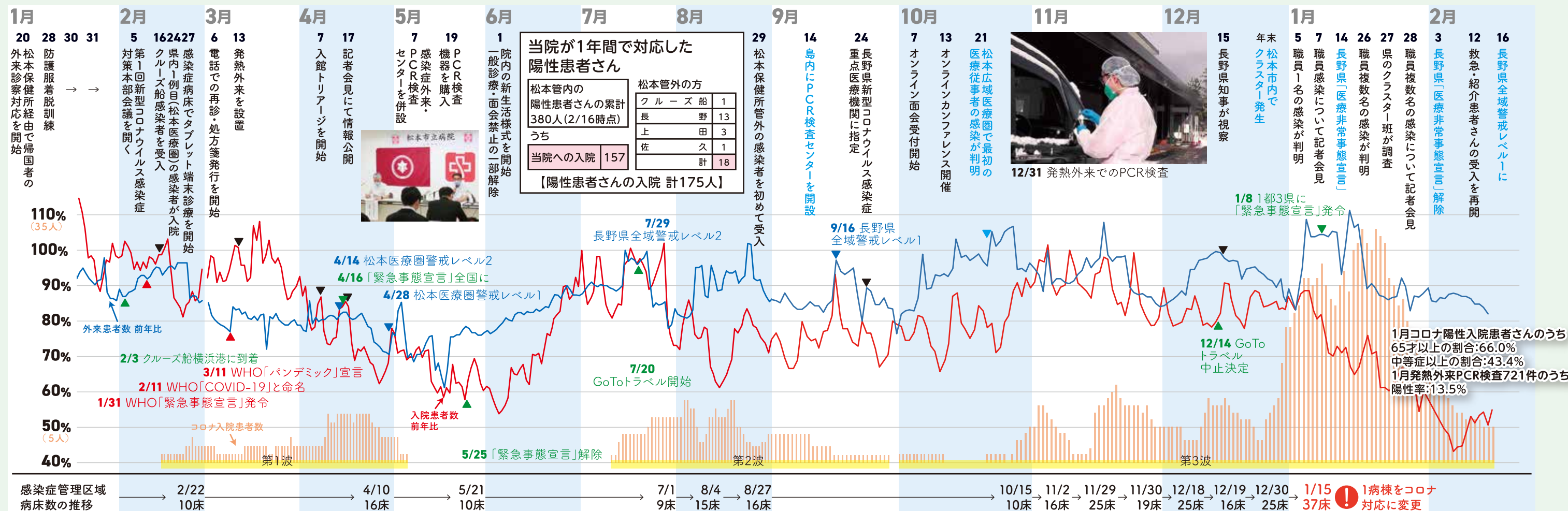
ん延が見られます。幸い今年は、マスクや手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保などの予防策によりインフルエンザ発生は激減しており、当院外来でも1例の報告しかありません。長いトンネルの出口が見えてきましたが、引き続き終息が明らかになるまで、当院としましても感染対策に万全を期すとともに、一般診療との両立をはかり松本西部の地域医療を守っていく所存です。今後ともよろしくお願いたします。

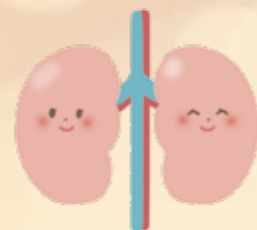


12/15 阿部知事が来院

1/14「医療非常事態宣言」に中村院長が出演

## 松本市立病院、新型コロナ 対応の軌跡





# 泌尿器科

## 排尿ケア チーム



### 泌尿器科について

2002年に泌尿器科が当院に開設され、当初、飯塚医師1人の体制でした。十分休息もとれないなか大変精力的に診療を続けておられましたが、2017年に泌尿器科2人体制になり、これまで以上に柔軟な対応が可能となりました。

泌尿器科と聞いてどのような科かイメージができない方も多くと思います。泌尿器科は腎臓から尿管、膀胱、尿道と言った尿の通り道にある臓器に加え、副腎、精巣、前立腺などを診る科です。皆さんが想像しているよりも体の中の多くの部分を診る科ではないでしょうか。その臓器ごとに症状や問題があれば治療をすることになります。具体的には頻尿や排尿困難などの排尿障害、悪性腫瘍、尿路結石などの疾患を診察しています。

当科の特色としては悪性腫瘍、特に前立腺癌、膀胱癌は力を入れている疾患です。数年前より酢酸を使用して膀胱癌を白くさせることができることを発見し、膀胱癌の手術に応用しております。膀胱癌はその性質のため、非常に再発しやすいのですが、当院では、この酢酸使用によって比較的少ない回数の手

術で膀胱癌を取り切れることが多くなり、当院の膀胱癌再発率はかなり改善されている印象です。

また、当科では、往診にて尿のカテーテル(管)を交換する泌尿器科独自の往診システムを導入しております。通院が大変な方はお申し出ください、カテーテル交換のみならず検討いたしますので、よろしくお願いたします。

排尿ケアチームによる排尿自立支援も行っています。患者さんの排尿自立を促すよう多職種が集まり、下部尿路の評価を行い排尿誘導や保存療法、リハビリテーション、薬物療法等を組み合わせるなど下部尿路機能の回復のための包括的なケアを行なうという支援です。

現時点ではコロナ禍とあって、思うように診察、手術ができない日々ですが、ここを乗り越えて、再び市民の皆様へ充足した医療を届けられるように泌尿器科スタッフ一同、願っております。相談だけでも結構ですので、排尿などでお困りの方は、気楽に当科においでください。

泌尿器科：科長

**飯塚 啓二**  
Iizuka Keiji

好きなこと：家庭菜園

千葉県出身。1987年に信州大学を卒業後、信州大学泌尿器科学教室に入局。その後、松本医療センター、佐久総合病院、伊那中央病院、大町市立病院、篠ノ井総合病院、飯山赤十字病院、市立岡谷病院に勤務の末、2002年に松本市立病院に赴任しました。また、信州大学時代にはいろいろな地域の病院に診療や手術のお手伝いに行かせていただき、県内の病院は、ほぼ制覇しています。飯山赤十字病院時代より1人で泌尿器科を切り盛りしていましたが、寄る年波に勝てず、医局に後輩医師を出して頂きたいと要望するもなかなか実現せず、もう無理と思ったら、2017年に念願叶って石川医師をゲットできました。

学生時代に先輩に言われた「努力をすれば空も飛べるはずで、飛べないのは努力が足りないからだ」という言葉をずっと大事にし、日々精進して参りたいと考えています。

努力をすれば空も飛べるはずで、  
飛べないのは努力が足りないからだ

泌尿器科：科長

**石川 雅邦**  
Ishikawa Masakuni

好きなこと：ジョギング

こんにちは。私は泌尿器科の石川雅邦です。主に排尿症状と尿路腫瘍を診ています。愛知県出身です。2000年に信州大学を卒業して泌尿器科医になり20年が経ちます。県内の病院で勤務した後、2017年4月から松本市立病院に赴任しました。座右の銘は「健康第一」です。すべての人が健康で毎日を過ごせればこれほど嬉しいことはありません。私自身は趣味のジョギングをして健康づくりしています。

#### 追加豆知識

普段からおしっこが出にくい方は、風邪薬、飲酒や便秘に気をつけましょう。



排尿ケアチーム

排尿自立支援!

独自の往診システム!

膀胱癌手術!

お気軽にご相談ください。

すべての人が健康で毎日を過ごせれば  
これほど嬉しいことはありません。

こんにちは!

# 在宅療養支援チームです!

患者さんの住み慣れた環境での生活を支える在宅療養支援チームの活動を紹介します。

在宅診療ご案内パンフ



お気軽にご相談ください!



チームリーダー 黒河内 顕先生

## 在宅診療の魅力

当院は24時間365日対応致します。在宅診療移行後は、訪問担当医や当院訪問看護ステーションによる全身管理を行うと共に、管理栄養士やリハビリセラピスト、緩和ケア担当看護師等との連携により、療養生活の継続に向けたトータルケアサポートを行います。

## スタッフ構成

医師、看護師5名(在宅担当/退院支援/地域包括ケア病棟/外来担当/緩和ケア)、訪問看護ステーション、訪問リハビリテーション、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、事務担当2名

## 対応可能エリア

松本市  
(波田、和田、新村、梓川地区)  
山形村、朝日村

※上記以外の地域からのご紹介は応相談。

## 訪問看護 Home-visit nursing

塩原 由理江



定期的に患者さまを訪問し、日々の健康観察をしています。ご自宅での急変時等にも24時間体制で対応しており、療養生活における相談役として活動しています。医師による治療が必要な場合は、医療機関への受診相談も行っております。

## 訪問リハビリ Rehabilitation

桐原 恵美



日々の生活のなかで「今できること」や「これからやってみようこと」をお聞きし、一緒に目標に向かって取り組み、リハビリのお手伝いをいたします! 住環境や福祉用具の活用についてもお気軽にご相談ください。

訪問看護ステーション▶



## 「患者さんに寄り添う医療」

通院が困難な患者さんを対象に、ご自宅へ医師が訪問し、診療をしています。住み慣れた環境での療養を希望される方、ご自宅で最期の時を過ごしたい方も訪問しています。最近ではコロナ禍による面会制限のため、お看取りが近い方のご紹介が多くなっております。自宅で過ごされた患者さんやご家族から、大切な時を過ごすことができたとお言葉をいただきました。生活の場での医療には限界がありますが、これからも患者さんに寄り添った診療を続けたいと思います。

## 栄養 Nutrition

清沢 幸江



在宅診療の対象となる方は複数の病気をお持ちのことも多く、「食事を摂れなくなる」というリスクを抱えています。訪問看護師との連携により、栄養サポートチームが患者さまの栄養状態を観察し、症状やご家族の介護環境等に応じた食事プランを提案いたします。

## 緩和ケア End of life care

吉田 ひとみ



家に帰ると決心されても、様々な不安はおありかと思います。患者さんや支えられるご家族の思いをお聞きしながら、安心して療養生活が続けられるようにお手伝いさせていただきます。いろいろな思い、1人で抱えずに、どうかお話しください。

## 患者さんからの声

大変よく診ていただき、感謝しております。私の日頃の話しにもおつきあいいただき、とても癒やされております。これからもどうぞよろしくお願いたします。

いつもお世話になっております。日頃からきめ細やかな対応をしていただき、とても感謝しております。看護している家族のケアまでして頂きまして、本当にありがとうございます。父も訪問看護の日を楽しみにしております。これからもよろしくお願致します。

本当に、家族も本人も助けていただき、温かい言葉もかけていただき、親身になって相談ののってください、感謝感謝です。私一人で世話をしていた時は不安ばかりでしたが、皆さんにお願いしてから救われた思いです。いつもありがとうございます。皆様もお身体大切にしてくださいませ。

## お問い合わせ

松本市立病院  
TEL: 0263-92-3027 在宅担当看護師(平日 8:30~17:15)  
または 訪問看護ステーション  
TEL: 0263-92-8110(平日 8:30~17:15) までお問い合わせください。



感染対策委員会 委員長  
澤木章二

## 一人ひとりの感染予防・ 地域をあげての感染対策

最初の患者さんの受け入れから1年が経ちました。当初から対策会議を連日開催し、対応を皆で検討、実行しています。当院は軽症・中等症の担当という役割で、最大限37名(患者33名・疑似症4名)までを想定。圏域内の状況に応じて、病床数・診療看護体制を調整してきました。

この病気は当初は軽症で入院しますが、入院数日後からの状態悪化が、特に高齢(糖尿病・肥満などがあると若い方でも)の方では多いという特徴があります。従って、診療・看護する側では、たとえ軽症で入院されても重症化の兆しを早期に察知し、なんとか重症化させない対応、重症化前に速やかに重症担当病院への引き継ぐことが求められます。

また、この病気への大きな不安、短期間での状態変化、しかも直接面会ができないこともあり、患者さん自身そしてご家族のお気持ちのつらさはかなりなものであり、これに寄り添う必要があります。すべてにおいて感染防備を徹底しながら実施します。

昨年末から今年にかけ、この地域で複数のクラスターが発生し、患者さんの数が短期間で一気に増えました。コロナ診療を、病院あげて総力戦で対応しました。そんな中、地域での感染者数が減少しはじめた頃、第一線を担っているスタッフ複数名の感染が判明しました。同じチームで働くものとして、今まで皆が頑張っている姿を見ているだけに、とても切なくて、くやしくて、毎日涙がにじみました。幸い皆さん快方に向かい、今後のよりよい診療・看護・感染対策を検討しながら日々前進しています。一人ひとりの感染予防、地域をあげての感染予防が、これからも、とても重要だと思います。引き続きよろしくお申し上げます。

## コロナで入院された患者さんからのメッセージ

- 不安で仕方が無かった初日、看護師さんの「大変だったねー！」の明るい一言に凄く救われました。入院中も山話し掛けて頂き前向きに過ごせました。感謝です。
- 今回特別な環境でこちらの病院に10日間もの間、大変お世話になりました。当初はコロナでの入院で私も不安で、先が全く見えない中でとても孤独でした。食事の味も分からなくなり、熱も出たり、頭痛もあつたりと退院出来る日が来るのか?など心配でした。看護師さん達のお陰で徐々に明るさを取り戻し元気になりました。ありがとうございました。皆様、お身体に気を付けて!!感謝!!
- 皆コロナにかかっているが、治りかけの人と、真最中の人と一緒にいるのは怖い。やはり、相部屋は気が休まらないので、個室が良い。(他にも個室希望、ハード面のメッセージを沢山頂きました)

1: 当院の感染対策、患者様対応、環境状態の満足度について伺います。 **満足：81.4%**

2: 当院に入院されて総合的な満足度はいかがでしたか。 **満足：82.1%**

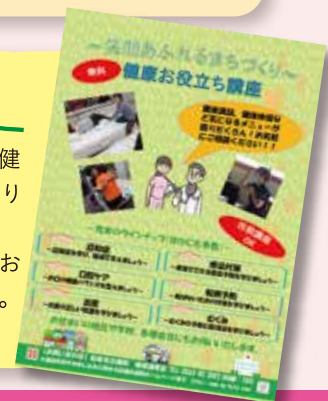
※2020年11月24日～2021年2月26日までに入院された31名に、当院の対応を伺いました。

## 出前講座のご案内

「出前講座」は、地域の皆様の健康づくりのお役に立ちたいと当院職員が皆様の元に伺い、健康や医療に関する内容を分かりやすくお話しする講座です。地域の皆様との交流を通じ、健康づくりや当院への理解を深めていただけるような内容となっております。

皆様知りたいこと、聞きたいと思われる講座について、ホームページの「出前講座一覧」からお選び頂き、「出前講座申込書」をFAXして頂くか、お電話にてお申し込み下さい。お待ちしております。

0263-92-3027 地域医療連携室



2021年3月31日発行  
●発行 松本市立病院 長野県松本市湊田4417番地180 ☎0263-92-3027(代表)  
●発行 広報委員会  
●制作 株式会社 日本広告



お知らせ

4月1日からホームページがリニューアルします。  
オンライン面会等の予約ができるようになりますので、どうぞご活用下さい。  
携帯電話からも見やすくなり、タイムリーな情報もご覧いただけると思います。

<https://www.mt-hsp.jp>

